

公益法人

2018
VOL. 47

No.

5

第47巻第5号 平成30年5月1日発行（毎月1回1日発行）

〈特集〉

措置法40条（国税庁長官の非課税承認）の改正について 遺贈寄附を上手に受けるには

ーレガシーギフトを受け入れる法人の立場から

若手世代と地域貢献活動 ー復興支援に取り組む高校生・大学生たち

〈連載〉

会計・税務によくある質問⑦「定期提出書類」に関する実務手続きのポイント その1
人事管理・労務関係によくある質問⑬ 給与（賃金）規定作成のポイント

■岡目八目（女人禁制と日本相撲協会）

■都道府県レポート（北海道）



写真：公益財団法人 ニッポンハム食の未来財団

表紙をかざった会員PRページ

“すべての人に食べる喜びを！”
食物アレルギー分野の研究促進と
啓発活動で社会を支援する

公益財団法人

ニッポンハム食の未来財団

〒305-0047

茨城県つくば市千現2-1-6

つくば研究支援センター A-24

TEL:029-893-4466 FAX:029-893-4360

<https://www.miraizaidan.or.jp/>

設立：2015年1月27日

本協会入会：2015年4月1日

沿革

ニッポンハムグループは約20年に渡り、食物アレルギーに関する研究開発および事業（アレルギー対応食品やアレルギー物質検出キット）を展開しています。食物アレルギー問題はますますクローズアップされ「アレルギー疾患対策基本法」の施行の下、行政が問題改善に動き始めました。患者の安全確保とQOL向上のために社会全体で対応する時代に入りました。

日本ハム（株）は、このような情勢下、培った経営資源を活かし公益性を追求する活動を行うために、2015年に一般財団法人を設立。2017年4月に公益財団法人に認定され、食物アレルギーに特化した公益事業に取り組んでいます。

「すべての人に食べる喜びと感動を提供する」ことを究極の理想に掲げています。

事業活動

1. 公募型研究助成事業

食物アレルギーは未解明な課題も多く、発症機序や有効な治療の研究の加速化が望まれます。研究助成は、食物アレルギーの研究を対象に「医療と食分野の融合型研究の促進」を狙いとする共同研究と「若手研究者の支援」を狙いとする個人研究に区分しています。平成28～30年度の助成総額は1億8,300万円、助成課題数は65件を数えます。

昨秋、平成28年度の成果報告会を開催。期待通りの成果が発表され、活発な議論と研究者の交流など盛況な会となりました。

2. 食物アレルギーの方のQOL向上を目指す啓発活動

食物アレルギー対応食料理コンテスト

家庭での料理技術の伝承、アレルギーに対す

る意識高揚を狙いとし、食物アレルギーに配慮したアイデア料理を表彰する事業を行っています。3回実施し2,000件を超える応募があり60作品を表彰。美味しさはもとより「料理を食べさせたい」想いのこもった作品が揃っています。表彰式は、創作エピソードも披露され感動が溢れます。財団は、このオールジャパンで得た知恵と努力の成果を世の中で活用いただくための取組みにも注力します。

食物アレルギーセミナー

栄養士等を対象にセミナーを開催。この10数年、診断・治療・栄養指導等の考え方に目まぐるしい変化があり、最新情報を盛り込んだ専門家の講演は強いインパクトを与えています。この3年に全国15地域で開催、聴講者は約2,400名となりました。

3. その他の事業

子供向け啓発書籍の制作

小学生に食物アレルギーを正しく理解し関心を持たせるため、シナリオに工夫を凝らした学習漫画を専門家の監修により制作。全国の小学校と公立図書館に寄贈しました。

団体活動支援助成

患者支援団体等が行う教育目的の活動や啓発物作成等に対して助成する事業を行っています。3年間で10件の活動に助成しました。

表紙写真

【中上】平成29年度 食物アレルギーセミナー風景

【中下】第3回食物アレルギー対応食 料理コンテスト」上位受賞者の集合写真

【その他】食物アレルギー対応食 料理コンテスト最優秀賞作品